

平成17年度 第47回 全国公立学校教頭会研究大会 宮崎大会に参加して

<参加分科会>

第6分科会 教頭の職務に関する課題

<提言テーマ及び提言者>

- (1) 鹿北町教育研究所の取り組みをとおして
山鹿市立菊鹿中学校 徳丸 章先生
- (2) 学校運営マネジメントに係る教頭の職務
高知市立一宮東小学校 山下 一先生
- (3) 学校の活性化と教頭の役割
日向市立富高小学校 鈴木 健二先生

<提言から学んだこと>

(1) から

- ・ 地域の教育研究所を中心として、企画運営は教頭が積極的にリードし、幼・小・中が連携を密にして子どもたちを育てていることがすばらしい。
- ・ 研究の柱は、9年間の見通しを持った基礎・基本の定着を図る取り組みであるが、授業をもとにして「子どもたちに身につけさせたい態度」を明確にしたことに感心した。私も常々小中連携は、授業を柱として行うべきだと思っているので、共感しながら発表を聞かせていただいた。

(2) から

- ・ 高知県の代表として、実に堂々と落ち着いて発表してくださった。パワーポイントを操作する第六小学校の加嶋先生との息もぴったり。各県の先生方も非常に熱心に聞いていた。
- ・ 後のグループ討議では、高知県の教務主任の校務分掌のあり方が話題となった。やはり、本県の教頭は、他県の教務主任の仕事をだいぶ取り込んでいるようである。

(3) から

- ・ 特色ある学校づくりをめざすために、教頭としてどのように「リーダーシップ」を発揮すればよいのかを明確にした提案であった。

【教頭としてのリーダーシップを発揮するためのポイント】

リーダーシップにかかわる理論研究をする・・・中日ドラゴンズの落合監督を例に、リーダーシップのスタイルを明確に整理していた。(ここのとらえ方は、私と違っていたが・・・)

「学校」「教職員」「子ども」「保護者」「地域社会」の視点から、具体的に活性化した姿をイメージする。・・・学級経営でも理想像を描きながら、それに迫るための方策を様々考えることが大切であるので、それと同じである。

アンケートの実施と分析・・・アンケート調査は研究推進のためによく実施されるが、「市内共通の課題」と「各学校固有の課題」の2つに分類し、2つの視点で具体的方策を立案し実践していることに驚いた。

- ・ 「教頭通信」「生徒指導通信」「授業研究通信」など、自分自身はもちろん、それぞれのモデルリーダーに書くべき内容を助言し、通信という方法を使ってその意識を高揚させている。私も「研究通信」を通して似たような実践をしているが、書く内容の指導助言の細かい気配りに学ぶことが多かった。

<参加型分科会(グループ討議)について>

・ 成果

今年度から実施された参加型の分科会である。わずかな時間であっても全国の先生方と情報交換したり、自分の考えを述べたりすることができ非常によかった。全国をより身近に感じることのできるグループ討議は、ぜひ本県研究会にも取り入れたい。

・ 課題

グループ討議のコーディネーターの役割が大切である。短い時間であるため、何に視点をしぼって話し合うのかを十分吟味しなければならない。その場で発表を聞き、即座に視点をしぼることはたいへんではあるが、日々の校内研修の事後研修の場などで自己研鑽していかなければならない。